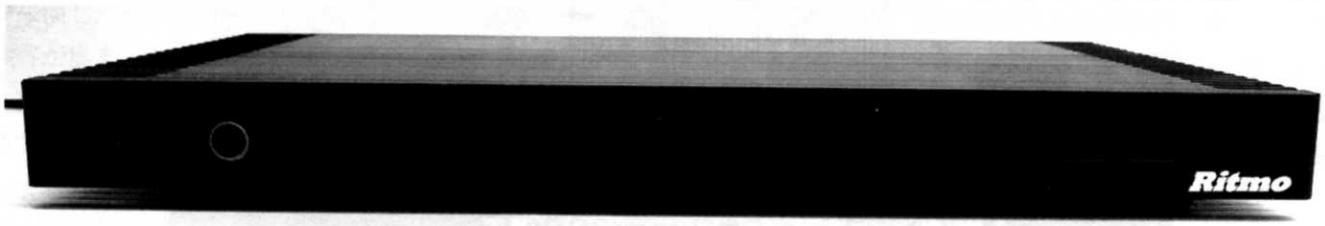
オリオスペック社のRitmoDSDPlayという音楽再生専用PC



さて，前回，前々回と，DAコンバータをご紹介したので，その音楽データを送り出すPCをご紹介したい．オーディオ・ファンのために特別にデザインされた専用PCである．

その製品を見つけたのは，東京インターナショナル・オーディオ・ショーの今井商事のブースで，マイテック社のDAコンバータで各種のヘッドフォンを鳴らすデモに使われていた．見慣れない黒くて薄い筐体，これがPCかと驚く様な外観である．一見，最近流行の高級デジタル・パワー・アンプかと思ったくらい．

会場では出展社以外の製品を宣伝できないということで，後日秋葉原の昌平橋交差点のすぐ裏にある，オリオスペックのお店で，取締役の酒井啓吉氏の説明を受けた．以下にまとめてみたい．

筐体の大きさは，横幅が39.5cm，奥行きが22.5cm，厚みは4cmである．全体は漆黒のマット塗装が施されている．正面パネルにあるのは，電源スイッチとCDの挿入口だけのクールな概観である．

この筐体は，一個のアルミ・ブロックから削り出して作っている．まるで，高級オーディオアンプの様である．実際，部品を収める空間は，マザー・ボード，CDドライブ，SSD(ソリッド・ステート・ディスク)別になっているというノイズにも強い仕様．マザー・ボードは，mini-ITX仕様のボードで，17cm四方しかない．

また，このPCにはノイズを出すファンを一切使っていないのが特徴で，繊細な音を聴くシリアスなオーディオ・ファンには絶対必要なことと思った．

そのために，左右に放熱フィンの付いた，この筐体は全体が放熱器の役目を担っている．一番熱が出るCPUを冷やすために，筐体一部がCPUの面の高さまで突き出ていて，直接接触する仕掛けである．突き出ている部分は，後で取り付けたものではなく，筐体トップ部の裏と一体となって削り出されているのが凄いところだ．

信頼性を確保するために，CPUの表面温度などを測定し，安全性を確認してある．なお，CPUにはIntelのCore i5というかなり高速のプロセッサを使っているので，快適な動作が期待できる．OSはWindows7 Professional 64bit版である．インターフェースは，モニター用がHDMIとDVI-I，USBは2.0と3.0が各2個，それにGigabit LAN，eSATAが出ている．

さて，このPCを音楽再生専用とするために，オリオテック社が，定評のある専用プレイヤー，Foober 2000を組み込み，接続するDACにあわせて，必要なドライバーもセットしてある．OSのチューニングもしてあるという．

PCオーディオで，一番頭を悩まし，中々うまく動作しない部分を，全て事前に設定してもらえるのは，大変有り難いことだ．

しかも，PCMの音楽ファイルばかりでなく，流行のDSDファイルのダイレクト再生までサポートされているのだ．また，音質の好みに関しても，色々とノウハウがあるので，対応できるかどうか，聞いて欲しいそうだ．

さらに，嬉しいことに，再生するファイルはPCMばかりでなくDSDファイルも簡単にできることだ．その上PCMファイルをDSDファイル変換しての再生も可能という．また，CDをリアルタイムでかけ，そのデータをその場でDSD化してDACに送るなんて技もある．

このパソコン，標準モデルでは，買ってすぐに自宅のオーディオ装置につなげられるよう，RATOCのRAL-DSDHA1というUSB-DACが付属してくる．その後，慣れてきたら，例えばMYTEKのSTEREO 192DSDの様な高級DACにアップグレードすれば，さらに音に深みが増し，そのディテイルの再現力にも驚くだろう．もちろん，DAコンバータを，すでに持っている方には，それに合わせた設定もしてくれる．

なお，価格は標準仕様で268,000円である．

(丹野哲男)